成長

編集＜総務＞
発行人 西村 敬憲
発行所 岡山市東区
西大寺中野 543-2
日本同盟基督教団
西大寺キリスト教会
電話(086) 943 - 7552

教会標語　日々新たにされる私たち
（Ⅱコリント5: 17）

「ハロウィーンの日」

主任牧師　西村　敬憲

一〇月三一日は、ハロウィーンでした。都会の方では、たくさんの人たちが騒ぐことで、話題になってきました。西大寺にいるとそういうこともなく、公園でバイキンマンみたいな衣装を着せて小さな子どもたちの写真を撮っているお母さんがいるくらいです。

もともとは、ヨーロッパの原住民の間で行われていたお盆のようなものですが、死んだ人が帰って来るのにまぎれて、悪女みたいな気持ちの悪いものもいっしょにやって来るというのが、静かな日本のお盆とは違うところです。どちらかというと、ついでにやって来た悪魔の仲間と言われているものが主役になって来ました。

私は、小学生のころ東京の府中市に住んでいましたが、すぐそばに広大な駐留米軍の家族が住む「関東村」と呼ぶ広大な町がありました。柵の向こうには白い家が並んでいるアメリカの風景でした。もちろん普段は入ることができないのですが、一〇月の終わりに山田さんという英語のできるおじさんがその別世界の町に連れて行ってくれました。夕方の薄暗い中、白いドアの前に立ってノックをすると映画に出て来るような金髪の女の人がにこやかに山田さんと話してその隣にいた小さな日本人の子どもを見て、手に持っている紙袋に一つかみのお菓子を入れてくれました。それを数軒繰り返して、山田さんは自宅に送ってくれました。なんだか不思議な日でした。それがハロウィーンだと知ったのは、ずいぶん後のことです。「トリックオアトリート」どころか「サンキュー」も言えませんでした。

日本では、魔女の格好をして歩いたり、パーティーをしたり、インスタにあげる日としてこれからも続けられるでしょう。でも魔女もゾンビもジャックオーランタンもみんなお話に出て来るものばかりです。普通のコスプレは、憧れているものになってみるわけですが、ハロウィーンのコスプレは異様なものが多いです。メイクには生なましい傷や血が描かれていて、こうなりたいというものとは恐らく正反対の姿です。怖いものになりたいだけなら、日本産の鬼太郎とか目玉おやじでもいいのですが、やはり外国のものが人気なのは、背後に親玉として悪魔という漠然としたものがあるからだと思うのです。悪魔というのは、日本の文化にはないものですが、断片的なことをつなぎ合わせてつくられたイメージがあります。

聖書にはイエスの前だけに姿をあらわすものとして登場しています。そこでは、四十日四十夜断食をして祈ったイエスに近づいて、その空腹に対し「あなたが神なら石をパンに変えてみよ」とささやいたり、高い所から全世界を見せて「私にひれ伏すならこの世界のすべてをおまえに与えよう」などと誘ったのです。しかしイエスが全く動じないので悪魔はしばらくイエスから離れます。そこで垣間見えるように、悪魔の実態はひそかに人に欲しいものを与えて、その欲望に埋もれさせて自分自身を滅ぼすように導くものです。ここがろくろ首や傘小僧のような日本のお化けと違うのです。彼らにはそんな悪意はありません。

しかし決して姿をあらわさない悪魔を人のほうからコスプレによって一体化しようとするほど親しみを覚えるのは、欲望をかなえるものだと信じられているからでしょう。ハロウィーンの日の混乱は、人は欲望のままに動いていいとささやかれて、普段はしないことをやってしまうことから始まっているのかもしれません。お酒のせいだけではないのです。あの暴力やゴミの山

※ 次ページへ

フロンティア２０２４に参加して

只野　恵

フロンティア２０２４は、八月一二日～一五日に東京の国立オリンピックセンターで開催されました。全国の同盟基督教団から青年が集い、一緒に賛美をしたり受け取ったメッセージを分かち合ったりすることができました。祈りに覚えてくださったサポーターの方々に感謝します。三泊四日ということで毎晩の集会メッセージと交わりに加えて、日中のプログラムも充実していました。国外宣教・国内宣教について知り、考える時間や、多種多様な分科会、フリータイムには有志で東京観光もありました。

今回のテーマは「ＬＯＯＫ　ＵＰ！」、聖書箇所は「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。」（ヨハネ四章三五節）でした。

メッセージは、五名の講師の先生方から語られ、派遣礼拝を除いた四回はサマリアの女について聖書の順を追って深く学びました。人目を避けていたサマリアの女に、イエス様はわざわざ会いに来て本音を聞こうとされた。メッセージの中で、上辺だけではない、本音を聞きたいと思ってくださるイエス様の姿に目が開かれ、親密な交わりに招かれていることを実感しました。また、信頼し始めたら問いが始まる。その問いを聖書にぶつけていくことが大切という内容も語られました。グループタイムでは、メッセージ後に出てきた問いについて一緒に考えたり、曖昧な理解だった部分を調べて共有したりすることが多々ありました。「問い」ときちんと向き合う過程で、聖書の理解が深まり、応答へと導かれていくことを学びました。

また、国外宣教についての時間には、齋藤五十三先生ご一家のご活躍で、真依ちゃんと謙治先生が司会、パネラーに千恵子先生が登壇されました。その他にも西大寺でお世話になった先生方とお会いしたり、県外に出て生活している友人とゆっくり話すことができたりして、懐かしい方々と再会の時を過ごしました。

個人的には、この約半年間は祖母を天に見送ったり、兄の結婚式があったりなど、人生について考えさせられる期間でもありました。フロンティアで、神様の前に本音を出すように背中を押され、これまでは何となく自分の中に抑えていた気持ちも、神様の前に出して祈ることが増え、自分自身の変化を感じます。どんなに心が頑なになっていても、神様はいつでも待っていてくださることに信頼して、本音で向き合っていきたいと感じたフロンティアでした。最後に、テーマソングの歌詞（一部）で締め括りとします。

「私の全て知る方が閉ざされた心に触れられる　頑なこの心に喜びが広がっていく　私の罪を担う方が渇いた心を満たされる　新しくされた私であなたのみこころに生きたい」

※は、一晩を欺かれた人たちのみじめな姿でもあると思います。

この悪魔のわなから人を救い出すためにこの世界に来たのがイエス・キリストです。そしてまた世界はハロウィーンをあとにして、すぐにぎやかなクリスマスシーズンを迎えます。その中心にある赤ちゃんに目を留めるときになったらいいですね。

日本同盟基督教団フロンティア２０２４青年宣教大会に参加して

原　聡　史

八月一二日から八月一五日まで国立オリンピック記念青少年総合センターで日本同盟基督教団フロンティア２０２４青年宣教大会がありました。

各プログラムやメッセージなど企画段階から多くの人が祈り、緻密な準備があったのだろうと感じた四日間でした。

普段の日常と離れた四日間は私にとって信仰の励ましを受けるときとして用いられたと感じています。

特に個人的に一番大きな恵みはメッセージでした。

聖書箇所はヨハネの福音書四章一～一八節、一九～二六節、二七～三八節からでした。齊藤五十三先生含め三人のメッセンジャーがそれぞれの聖書箇所から語ってくださいました。

物語は、イエス様が、結婚と離婚を五回繰り返していた女性だと知りながら、当時ユダヤ人と仲が悪かったサマリア人の女性に自分から話しかけるところから始まります。

三回のメッセージとも、サマリア人の女性がイエス様と出会い、対話をし、そのあとすぐに女性が行動したこと、そしてその後のイエス様と弟子達のやり取りに焦点を当てていきます。

メッセージの内容をすべてここに書くのは字数の関係上難しいので、特に心に残ったことに絞ります。

サマリア人の女性がイエス様との対話が終わったあと、弟子達がイエス様に食事を勧めると、「わたしには、あなたがたが知らない食べ物があります。」とかみ合わない対話をはじめます。（三一～三三節）

イエスは彼らに言われた。「わたしの食べ物とは、わたしを遣わされた方のみこころを行い、そのわざを成し遂げることです。（三四節）

齊藤五十三先生はこの三四節から、イエス様はみこころを行うことを、使命でもなく、仕事でもなく、食べ物と表現したことを強調していました。サマリア人の女性やイエス様のように、みこころである証しは、人を動かし、自分自身の人生を満たし、豊かにすることができることを話してくださいました。

今回のフロンティアのテーマは「ＬＯＯＫ ＵＰ」でした。テーマの聖書箇所は、「目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。（ヨハネ四・三五）」です。

すでに刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに至る実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。（三六節）

齊藤五十三先生のメッセージを聴きながら、この三五節はイエス様の愛のある命令なんだとふと思いました。

証しをしてきた人たちの働きに加わる恵みと幸いに感謝しながら、これからも歩んでいきたいと思わせて下さったフロンティアでした。

世界食料デー岡山大会

2024年10月20日（日）

芳泉伝道所だより

原　みはる

芳泉伝道所はこの秋で四年目を迎えました。赤江先生の健康が支えられ、変わらず礼拝を続けることができています。これは、本当に多くのお祈りに神さまが答えて下さってのことだと心から感謝をしています。芳泉伝道所の礼拝で赤江先生が語って下さったことをまとめた「死ぬ日は生まれる日にまさる」が本になりました。芳泉伝道所のメンバーも自分たちが最初に聞いたメッセージが本になって出版されたことにとても励まされています。今年は月一回、菊池伝道師と三宅長老が交代でメッセージに来てくださっています。お二人の丁寧な聖書の読み方にたくさんのことを教えられています。

また、「芳泉伝道所三浦綾子読書会」も三年目を迎え、より一層充実しています。六月には親教会と合同で長谷川与志充先生をお迎えしました。講演会に先立ち、赤江先生をはじめ、礼拝メンバーの一部が近隣にチラシを配りました。当日には、五名の未信者の方が来られ、その中のおひとりがその後も続けて読書会に来られています。読書会発足の折からの参加者、上野さんも休まず読書会に来てくださり、今回の別府さんが加わり「芳泉伝道所三浦綾子読書会」はますます元気です。芳泉のメンバーも上野さんが応援する地元のファジアーノ岡山に感心を持つようになり、読書会の合間のおしゃべりも一層盛り上がりを見せています。

一〇月には、長谷川先生が桜が丘キリスト教会の講演会の後、西大寺キリスト教会でも、講演会を開いて下さり、「三浦文学と聖書の関係」をより深く学ぶことができました。

芳泉伝道所の最初の受洗者の竹本昭栄さんも健康が守られ、平日はあい愛のデーサービスに通われていますが、日曜日は元気に礼拝に出席してくださっています。娘さんがお仕事の都合がつくときには、伝道所への送迎をされます。竹本さんの妹さんも、親教会の召天者記念礼拝に参加されていました。

また、先日は、かつて、月一回芳泉伝道所でメッセージの御用してくださっていたバーン先生ご夫妻をお迎えすることができました。先生ご夫妻も芳泉伝道所が再開できていることをとても喜んでくださいました。

芳泉伝道所の礼拝メンバーの平均年齢は、仕事が休みの時に来てくれる二〇代の森本直央君の参加で少し若くなっています。年齢は高めですが、メンバーの気持ちは若く前向きです。私たちを宣教の前線においてくださる神さまに心から感謝しています。これからもお祈りとご声援をよろしくお願いいたします。

バーン宣教師ご夫妻をお迎えして

2024年10月13日（日）